DOI：10.2490/jjrmc.57.108　　Jpn J Rehabil Med 2020；57：108

巻頭言

この道の学究の徒たらんことを

角田　亘
国際医療福祉大学医学部リハビリテーション医学講座　主任教授

すべてのリハビリテーション科医は，さまざまな障害を抱えた患者に対して，現在における最良のリハビリテーション医療を確実に提供する義務がある．そうすることで，リハビリテーション医療の均てん化が図られ，各地の患者がそれを享受できることとなる．ただし，現在のリハビリテーション医療は，決して“完全なる完成形”には至っていない．リハビリテーション医療を施されても障害を残す患者が数多と存在する現状を顧みると，リハビリテーション医療のさらなる革新が待たれる．そして，リハビリテーション医療を革新させる学問こそが，リハビリテーション医学である．

リハビリテーション科医は，リハビリテーション医療の specialist であり，professional でもある．それはそうだが，われわれはそこで満足すべきではない．願わくばリハビリテーション科医は，リハビリテーション医学の発展にも尽力せねばならない．なぜならば，リハビリテーション医学を発展させることができるのは，障害をもって生きる患者の苦しみを熟知したリハビリテーション科医だけであるからだ．

極論だが「患者に障害が残れば，それはリハビリテーション科医の敗北である」と私は考える．“障害の受容”という言葉に甘えて患者から一縷の回復の望みを絶つことは，決して難しくない．しかしながら，われわれリハビリテーション科医が真に行うべきことは，患者に回復の望みを“与える”ことである．回復の望みを“与える”唯一の方法は，リハビリテーション医学の発展をもたらすことに他ならない．リハビリテーション科医が，リハビリテーション医学の研究活動に身を捧げ，その暁になんらかの成果を生まない限りは，患者が新たな望みを抱くことはあり得ない．

リハビリテーション科医が，患者に「もはや回復の術がない」ことを伝える．そうすると，患者はかつてないほどの落胆を全身で現し，それを目にしたリハビリテーション科医は言いようのない“やりきれなさ”を感じる．私は思う，リハビリテーション科医なるもの，このときに抱いた無力感を忘れてはならない．この無力感をドライビング・フォースに昇華させることで，リハビリテーション医学の道へ自らを押し出し，その道の研究活動に熱を注がねばならないのだ．

リハビリテーション医学の道において，患者の幸せに直結する研究成果を生み出すことは容易ではない．だからといって，リハビリテーション科医がリハビリテーション医学の発展をあきらめることは許されない．われわれリハビリテーション科医は，研究のもつ無限の可能性を信じて，リハビリテーション医学の道に踏み留まらなければならない．そして，次世代のリハビリテーション科医のためにも，不断の研究活動を通じてリハビリテーション医学という学問のステージを進めなければならない．

本邦の多くのリハビリテーション科医が，リハビリテーション医学の“学究の徒”たらんことを心から願う．